区分・種別	重要文化財（建造物）		
名　　称	がりゅうさんそう　がりゅういん・ふろうあん・ぶんこ 臥龍山荘　臥龍院・不老庵・文庫　３棟		
所　在　地	大洲市大洲		
所　有　者	大洲市	管 理　団 体	
指定年月日	平成28年7月25日		
解　　説	臥龍山荘は、肱川を望む景勝地に大洲市出身の貿易商河内寅（こうちとら）次郎（じろう）が建てた別荘で、地元の大工　中野寅雄により不老庵が明治34年（1901）、文庫が同37年（1904）、不老庵が同38年（1905）に建てられた。臥龍院は、松皮菱の花頭窓など、桂離宮などの名建築に着想を得た細部意匠を持つ茅葺屋根の建物で、数寄屋技法の濃淡により室毎の趣向に変化をもたせている。不老庵は、肱川を見下ろす崖地に懸造で張り出す、独創的な造形を持つ茅葺の小庵である。各建物は、吟味された材料と熟練した技術により、全体構成から細部に至るまで、極めて独創的で濃淡な数寄屋の意匠にまとめあげており、四国地方における近代の数寄屋建築の優品として高い価値を有している。		